

醫學博士 越智眞逸先生著 (三版)

最新ホルモン學說

全一冊

四六版頗美本
天金文宇入
寫眞版及挿繪入
定價 金貳圓
(郵税金拾參錢)

本書は最近醫學界の喧しき問題の焦點なる内分泌學の邦文にて始めて書かれたる完全なる著書なり。然も著者は現に京都府立醫科大學の教授の職にあり日夜斯學研究に没頭し本邦に於ける斯學最高の權威者たるは既に定評ある所なれば本書の價値は推して知るべく敢て贅言を要せざる所なるべし。行文又平明直截に此學說を解説したれば本學に志す士は勿論ホルモン製劑の研究等々の必讀の書なり。

【目次】第一章ホルモンの定義、第二章ホルモン研究の歴史、第三章ホルモン研究の方法、第四章卵(附スライナツハ氏の研究業績)第五章卵巣、第六章腦下垂體、第七章松果腺、第八章甲狀腺、第九章上皮下體、第十章胸腺、第十一章副腎、第十二章脾臟、第十三章胃粘膜、第十四章腸粘膜、第十五章攝護腺、第十六章腎臟、第十七章脾臟、第十八章子宮、第十九章胎盤、第二十章胎兒は受精卵、第二十一章頸腺、第二十二章尾氈腺

291
777

終

